

地域を自分たちで守っていくために



昭和46年7月に入団してから36年間6カ月という多年にわたり町消防団活動に励むとともに、消防団らっぱ隊長として仲間と技術を磨き、団員確保や教育訓練に尽力した功績が認められ、瑞宝単光章を受章した横山富雄さん(釜段)が12月22日(金)に川地憲元町長を訪問しました。横山さんは「他の団員の支えもあって36年半勤めることができました。時代の移り変わりによって組織の形や在り方は変わっていくものだと思いますが、地域を自分たちで守っていくために後継者の確保や教育に努めてもらいたいです」とこれからの世代への願いを話しました。

戦没者を悼み、遺族として平和な国のためにできることを



平成16年から地区遺族会の会長に就任し、平成29年からは県遺族会理事と養老郡遺族会長を務めるなど、多年にわたり戦没者遺族などへの援護施策の充実に尽力してきた功績が認められ、援護事業功労者(戦没者遺族援護功労者)表彰を受章した堀源吾さん(宇田)が12月15日(金)に川地憲元町長を訪問し、その報告をしました。

堀さんは「戦没者遺族の責務として、現在、郡遺族会において町内小学校で戦争の悲惨さを伝えていくための活動をしています。今後も、国のために散った戦没者の冥福を祈る活動の継続とともに、未来永劫戦争のない平和な国としていくために活動していきます」と話しました。

もっと学び、もっと強く



東京都で開催された文部科学大臣杯 第17回JKJO 全日本ジュニア空手道選手権大会で準優勝した松田流誠選手が12月12日(火)に川地憲元町長を訪問しました。

川地町長は「喜びと悔しさがあると思いますが、全国大会の舞台上級生に混じっての準優勝という結果は大変誇らしく思います」と賛辞をおくり、松田選手は「上級生ばかりの中でしたが、準優勝することができました。自分の力は出し切りましたが、出場選手のレベルが高く、幅も広がったです。今大会は学ぶことが多くありました」と今大会の経験を糧に、更なる高みを目指す決意を語りました。

チームを盛り上げ、まず1勝!



県予選大会で優勝し、第4回全国U15バスケットボール選手権大会へ出場するBRUINS所属の志比田昂聖選手と椋代讓司選手、県予選大会で準優勝し、第12回全国U15クラブバスケットボールゲームスへ出場する同所属の高木梨乃愛選手と渡邊柚希選手が12月15日(金)に川地憲元町長を訪問しました。

選手たちは「ひとつひとつの練習を大切に、基礎・基本を固めて大会に臨みたいです」「まずは全国大会で1勝することを目指し、チームを盛り上げて練習に取り組みたいです」とそれぞれに抱負を語りました。